

五稜郭（角光嘯堂）

短歌 月影の牙ゆる蝦夷地の朝ぼらけ

矢弾の風に散る桜花

壮士 堂々 正気を 養い

俊夜 辺声 丘陵を 成る

干戈 去り 難し 北海の 海

曠野 場外 残月 高し

解説 箱館戦争とも。旧幕府海軍副総裁・榎本武揚を中心とする旧幕府軍

の明治新政府軍に対する最後の抗戦。衣食の途を失った旧幕臣を蝦夷地に

移住させ、その開拓統治によって一種の共和国を構想した榎本は、旧幕艦

八隻に諸藩脱走兵二千人を分乗させ江戸を脱走。途中、仙台で板倉勝静、

小笠原長行、大島圭介らを加え、蝦夷地上陸。次いで箱館府知事を追放、

松前城・江差を奪取して蝦夷地を手中にした。政府軍は米国より購入の新

鋭艦を加え榎本軍を圧倒、榎本らは立てこもっていた五稜郭を出て投降。

この戦いを最後に戊辰戦争は終結した。

語釈 ※壮士Ⅱ勇ましくて元気のいい男。※正気Ⅱ正しい意気。正しい気

性。※俊夜Ⅱ優れた夜。※辺声Ⅱ付近から聞こえる声。※干戈Ⅱたたか

い。いくさ。※去り難しⅡ避けることがむずかしい。のがれにくい。※曠

野Ⅱひろびろとした野原。※場外Ⅱある限られた場所の外。※残月Ⅱ夜が

明けても見える月のこと。

通釈 箱館戦争を戦う壮士は正気を養い、俊夜に付近から聞こえる官軍の

声が響くが、この五稜郭を護る強い決意が感じられる。しかし、戦いは明

治新政府軍の勝利に終わったが、この北海の海からは去りがたく、五稜郭

の天に残る月が空しく輝いていた。